

平成24年 1月 5日  
東北地方整備局

## 入札監視委員会の審議概要について (第一部会第3回定例会議)

東北地方整備局入札監視委員会の第一部会第3回定例会議は、12月7日(水)に仙台市の東北地方整備局で開催されましたので、その審議概要(別紙)についてお知らせします。

議事では、委員会が抽出した案件9件の審議が行われ、意見の具申又は勧告事項はありませんでした。

〈発表記者会：宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会〉

### 問い合わせ先

国土交通省 東北地方整備局

(第一部会) 仙台市青葉区二日町9番15号

TEL (022) 225-2171 (代表)

主任監査官	くまがいの	熊谷伊佐男 (内線2114)
入札契約監査官	すずき	鈴木和弘 (内線2220)
契約管理官	あべ	阿部幸太 (内線2222)
技術開発調整官	さいとう	齋藤廣見 (内線3120)

東北地方整備局 入札監視委員会（第一部会） 審議概要

開催日及び場所	平成23年12月7日（水） 東北地方整備局 大会議室	
委員	部会長 佐藤 英世（東北学院大学法科大学院教授） 部会長代理 宮原 育子（宮城大学事業構想学部事業計画学科教授）〔欠席〕 委員 京谷 孝史（東北大学大学院工学研究科土木工学専攻教授） 委員 熊谷 真宏（公認会計士・税理士）	
審議対象期間	平成23年7月1日～平成23年9月30日	
審議案件	総件数 9件（別紙－1 審議案件一覧のとおり）	
工 事	一般競争入札 （政府調達）	1件
	一般競争入札 （政府調達以外）	2件
	工事希望型競争入札	1件
	工事希望型以外の 指名競争入札	1件
	随意契約	1件
	建設コンサルタント業務等	2件
役務の提供等及び物品製造等	1件	
	<備考> (1) 工事、建設コンサルタント業務等、役務の提供等及び物品の製造等の発注状況 (2) 指名停止等の運用状況 (3) 談合情報等の対応状況 (4) 再度入札における一位不動状況 (5) 低入札価格調査制度調査対象工事の発生状況の報告を行った。	
委員からの意見・質問、それに対する説明・回答	別紙－2のとおり	
委員会による意見の具申又は勧告の内容	別紙－3のとおり	

## 審議案件一覧

## 【工事】

入札方式	工事名	工事種別	競争参加資格を確認した者の数	入札参加者数	契約締結日	契約の相手方	契約金額 (単位:千円)	落札率 (単位:%)	備考
一般競争入札方式(政府調達に関する協定適用対象工事)	国道6号鮫川大橋上部工事	鋼橋上部工事	16	16	平成23年9月8日	(株)IHIインフラシステム	963,554	88.7	磐城国道
一般競争入札方式(政府調達に関する協定適用対象工事以外のもの)	吉内川排水樋門新設工事	機械設備工事	9	8	平成23年9月12日	飯田鉄工(株)	36,225	85.8	岩手
一般競争入札方式(政府調達に関する協定適用対象工事以外のもの)	白河橋下部工工事	一般土木工事	3	2	平成23年9月9日	壁巢建設(株)	190,575	99.9	郡山国道

入札方式	工事名	工事種別	技術資料の提出を要請した者の数	入札参加者数	契約締結日	契約の相手方	契約金額 (単位:千円)	落札率 (単位:%)	備考
工事希望型競争入札方式	秋田第1地方合同庁舎(11)建築改修工事	建築工事	20	6	平成23年8月11日	加賀伊土建(株)	20,759	94.2	盛岡営繕

入札方式	工事名	工事種別	指名業者数	入札参加者数	契約締結日	契約の相手方	契約金額 (単位:千円)	落札率 (単位:%)	備考
工事希望型以外の指名競争入札方式	仙台法務総合庁舎(11)復旧外1件工事	建築工事	13	5	平成23年9月7日	(株)植木組	90,468	100.0	営繕部

入札方式	工事名	工事種別			契約締結日	契約の相手方	契約金額 (単位:千円)	落札率 (単位:%)	備考
随意契約方式	東北中央自動車道粟子トンネル(山形側2期)工事	一般土木工事			平成23年8月10日	三井住友建設(株)	4,084,500	99.9	福島

## 【建設コンサルタント業務等】

入札方式	業務名	業務分類	競争参加資格を確認した者の数	入札参加者数	契約締結日	契約の相手方	契約金額 (単位:千円)	落札率 (単位:%)	備考
一般競争入札方式	仙台河川国道事務所用地補償総合技術業務	補償関係コンサルタント	4	4	平成23年7月1日	(社)東北建設協会	17,325	85.3	仙台

入札方式	業務名	業種区分	手続への参加資格及び業務実施上の条件を満たす参加表明書の提出者数	入札参加者数	契約締結日	契約の相手方	契約金額 (単位:千円)	落札率 (単位:%)	備考
簡易公募型競争入札方式	四十四田ダム滝沢地区管理境界杭測量	測量	14	10	平成23年7月25日	北光コンサル(株)	4,515	16.0	北上川統管

## 【役務の提供等及び物品の製造等】

入札方式	業務名	業務分類		入札参加者数	契約締結日	契約の相手方	契約金額 (単位:千円)	落札率 (単位:%)	備考
一般競争入札方式	公共事業労務費調査(青森県、岩手県、秋田県)	役務の提供等		1	平成23年7月25日	(財)建設物価調査会	8,001	98.2	企画部

## 別紙－ 2

1. 報告	
意見・質問	説明・回答
<p>・「談合情報等の対応状況」に関する報告によると、事情聴取を行った案件が1件あったとのこと。</p> <p>公正取引委員会が高知県内の建設業者を談合の疑いで立入検査し、平成22年度の検査対象工事的平均落札率は90%以上であるという新聞報道がありました。</p> <p>また、会計検査院の決算検査結果が公表され、国土交通省関係では、727億円もの無駄遣いが指摘されたという報道もありました。</p> <p>このように、国民の目が向けられていることを認識し、今後とも適切な業務執行にあたっていただきたい。</p>	

2. 審議	
<b>1 国道6号鮫川大橋上部工工事</b>	
<p>・図面上で施工済、本工事施工、本工事完成後施工とあるが、全部別々の業者になるのか。</p> <p>・津波の遡上はどうでしたか。</p>	<p>・工事は違う種別であり、それぞれ独立して発注される。本受注業者とは異なることが多い。</p> <p>・橋桁の下のギリギリまで上がったが、橋桁を超えて路面まで上がることは無かった。</p>
<b>2 吉内川排水樋門新設工事</b>	
<p>・入札調書で1者のみ高い評価値になっているが、特別な理由があるのか。</p>	<p>・除算方式であるため調査基準価格ギリギリでの入札額となったことが、最大要素になっている。</p>
<b>3 白河橋下部工工事</b>	
<p>・コリンズ検索の結果21者が技術資料提出可能業者ということだが、C等級業者ということ考えると、もう少し多くてもいいのでは。施工実績で求めている杭基礎を含む橋梁下部工が特殊なのか。</p>	<p>・杭基礎を含む橋梁下部工の施工実績は、21者平均5件くらいあり、特殊なものではない。もっと手を上げてもらえると考えていた。</p>

意見・質問	説明・回答
<p>・実際に競争参加申請書提出業者は21者のうち3者である。少ない事情は分かるか。</p> <p>・入札調書を見ると3者のうち2者が辞退しているがその理由は。</p> <p>・入札調書で第1回入札金額は205百万円と210百万円と近寄っている。なおかつ、2回目に応札した1者の落札率も99.86%と非常に高い。</p> <p>・技術者確保の困難性や福島のおかれている状況は理解しているつもり。 そのうえであえて言わせてもらえば、ここ数年来、積算内訳に相似性がないから談合はないという説明を何度も聞いている。でも数字はどのようにもいじれる訳だし、入札金額が同額や近似値であれば、談合を疑うべきではないか。透明性を高め公正な競争を行うことからすれば、辞退や高い落札率にもっと注意を払うべき。</p>	<p>・東日本大震災関連の復旧工事が沢山発注されているという福島の特長性もあると考える。実際、建設業保証会社の統計によると、10月の公共工事請負金額は前年同月比55%増となっている。 それぞれの工事で配置予定技術者の確保が困難になっていることが考えられる。</p> <p>・1者はこの工事と同一の配置予定技術者を予定していた他の工事を受注したため辞退。他の1者は2回目の入札の際、金額的に折り合いが付かなかったものと推察される。福島では魅力的な工事であれば業者は受注しない。業者が選別している。</p> <p>・積算単価は公表されており、工事価格は高い精度で積算できる。予定価格と1回目の応札金額との差が大きいため、2回目入札の前に当方の積算の考え方について説明を行い、それに基づいて積算した結果、1者は予定価格を下まわり1者は辞退した。提出された積算内訳書をチェックした結果、2者とも独自に積算していることが確認できた。</p> <p>・談合を防ぐ方法は更なる工夫が必要と考える。整備局には復興に向けて大きな予算がつく反面定員は増えない。今でも談合防止の方策は行っているが、より巧妙になっていることも考えられる。今まで以上のチェックの方法を検討していきたい。</p>
<p><b>4 秋田第1地方合同庁舎（11）建築改修工事</b></p>	
<p>・なし</p>	
<p><b>5 仙台法務総合庁舎（11）復旧外1件工事</b></p>	
<p>・応札したA、B、C者はどこに本社がある会社か。</p> <p>・落札率が高いがどう考えているか。また無効になった者の応札金額はどれくらいか。</p>	<p>・それぞれ仙台市、新潟県柏崎市、東京都。</p> <p>・落札率が高くなっていることについては、直接費、間接費とも公表されている市場単価により積算している。さらにこの工事は概数発注であり、最終時点で精算変更に応じる旨説明をしているにも拘わらず、内装工事等の値上がりを加味した積算を行ったと思われる業者もあり、入札価格が高めとなったのではないかと推測される。無効となった業者の応札金額は予定価格の約81%である。</p>

意見・質問	説明・回答
<b>6 東北中央自動車道栗子トンネル（山形側2期）工事</b>	
<p>・事業の目的の1つに、地域間連携・交流のネットワークの拡大があるとのこと。大きな地方都市を結ぶということではまるが、これだけの長いトンネルだと、その間に住んでいる地域の方々への配慮をし、不利益を生じさせない対策を講じていると思うが、例えば冬期間でも国道13号は使えるのか。</p> <p>・工事を分割したのはトンネル延長が非常に長いからか。</p>	<p>・栗子峠の周辺は、スキー場等が一部開発されているだけで、ほとんど人口がない山岳地帯である。現道の国道13号を介して、それぞれ両側の米沢IC、福島市内の大笹生ICを使用することは可能である。国道13号は、冬期間も含めて通行は確保する。</p> <p>・施工延長が大規模であり、現行の会計制度での国庫債務負担行為の上限である5年では完了しないため分割した。</p>
<b>7 仙台河川国道事務所用地補償総合技術業務</b>	
<p>・受注者の技術点が高くなっているが、その理由は。</p> <p>・受注法人の国土交通省のOBの人数は。有給か無給か。</p> <p>・技術点が劣っているものの、最低入札価格で応札している者があるが、その者の実績は分かるか。</p> <p>・坂下交差点はかなり交通渋滞するが、拡幅は南側を買収するのか。</p>	<p>・次の4点があげられる。  ①マンションという特殊性に対応した用地交渉のあり方を熟知している。  ②個人情報に関して、コンプライアンスの観点が非常に優秀である。  ③用地補償の仕組みを理解している。  ④緊急時のバックアップ体制が確立されている。</p> <p>・公表されている資料によると常勤の役員は4名、内2名がOBであり有給。</p> <p>・用地買収する前の用地調査等業務を受注している。</p> <p>・南北両側を拡幅し、北側がより幅広くなる。</p>
<b>8 四十四田ダム滝沢地区管理境界杭測量</b>	
<p>・落札率が余りに低いので抽出した。入札価格を間違えたが、履行したい旨の申し出があったとのこと。どの様に理解したらいいのか。</p> <p>・赤字覚悟で業務履行するということか。</p> <p>・何をもって経営状態が良好であるという判断をしたのか。</p>	<p>・金額の1番最初（千万円の単位）の数字を除いて入力したとのこと。低入札の調査を行い、業務履行体制、配置予定技術者の実績、会社の経営状況等を確認し、履行可能と判断した。</p> <p>・この案件では、金額の錯誤無効は認めていない。一義的には最低価格落札方式であり、契約辞退となれば指名停止となる。会社として損得を判断した結果だと推察する。</p> <p>・3年分の活動経過の報告があり、純利益も計上されていることを決算書で確認した。</p>

意見・質問	説明・回答
<b>9 公共事業労務費調査（青森県、岩手県、秋田県）</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10月の給与をベースにしている理由は。</li> <li>・ 全般的に9月に残業が多く10月の人件費は相対的に高く、それが単価にも反映されるのでは。</li> <li>・ 過去5年間の受注をみると1者独占。5年間の契約金額の推移は。</li> <li>・ 受注財団法人の国土交通省のOBの人数は。有給かどうか。</li> <li>・ このまま無競争が続くようであれば、公正、公平な入札とはいえない。財団法人を見る世間の目は厳しく、門戸を広げていると言っても説得力がない。この状態の解消の努力を。</li> <li>・ この業務は各地方整備局でも発注しているようだが、他地方整備局も受注財団法人に委託をしているのか。受注財団法人以外が受注しているのであれば、参加要件が異なるのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ この単価が来年の4月からの適用となるため、統計作業上の処理もあり、全国統一で10月の調査としている。調査の詳細については本省に問い合わせないと分からない。</li> <li>・ 詳細については承知していないが、基本給と時間外手当については区分して調査している。対象となる人件費は本省に確認させて欲しい。</li> <li>・ 手元に資料がないので、調べて回答する。</li> <li>・ 公表されている資料によると常勤は7名で、国土交通省のOBは2名。常勤であれば有給と推測される。</li> <li>・ 参加要件を緩和しているが、1者応札が続いている。さらに検討し、競争性を確保していきたい。</li> <li>・ 全て民間のコンサルタント会社が受注している地方整備局もある。競争参加要件が当地方整備局と他地方整備局で異なるのか調査していきたい。</li> </ul>

## 別紙－ 3

### 3. 委員会による意見の具申又は勧告内容

本日の審議結果について、意見の具申又は勧告事項はありません。

今後とも、入札契約手続における一層の透明性及び競争性の確保など、入札・契約業務の適性な執行を行っていただきたい。

なお、要望が2点あります。

1点目は、辞退者が多くなおかつ落札率が高い事案について、談合等の有無について慎重に調査願いたい。

2点目は、過去5年間同じ法人が落札している事案について、透明性及び競争性の観点から競争参加資格要件の工夫等方策を検討願いたい。

#### 【当局からのコメント】

ご要望いただいた2点について、透明性及び競争性を高めるよう今後前向きに検討していきたい。